

# 土壌分析結果表

No. B240034

受付日 2024/10/01 作成日 2024/10/01

お名前	圃場名	土壌の種類	前作の生育状況	この度は土壌ワークスの土壌分析サービスをご利用頂きありがとうございます。
土壤太郎様	A圃場	やや硬い	やや悪い	

## 特記事項

- 適正値は一般的な作物の値です。栽培作物によっては値が異なります。
- リン酸減肥の目安は露地野菜のものです。水稻や果樹、施設栽培の場合は異なります。
- 施肥設計を行う際は、土壌の種類や気温・排水性・これまでの土壌管理状況等を考慮し、設計を行ってください。
- 土作りは短期間では結果が出づらいため、長期的に改良を行いましょう。

分析結果表				リン酸減肥の目安					
項目	分析値	単位	適正値	低い	やや低い	適正	やや高い	高い	
pH(H <sub>2</sub> O)	7	pH	6.0~6.5				○		リン酸は気温やpHの影響により、作物への吸収率が変化します。また土壌中に蓄積したリン酸より、新たに施用したリン酸の方が生育への効果が高いのでやや安全を見た減肥を行ってください。
可給態リン酸	250	mg/100g	40~80					○	
交換性カリウム	40	mg/100g	50以下(目安)			○			
交換性マグネシウム	20	mg/100g	35程度(目安)		○				* 生育状況を確認しながら、生育が劣る場合は追肥等による調整が必要です。
交換性カルシウム	300	mg/100g	200程度(目安)					○	
塩基バランス(Ca:Mg:K)	12.5 : 1.2 : 1	—	5:2:1			不適			分析の結果、リン酸は 250 mg/100g
Ca/Mg比	10.71	—	4~8				○		でした。よって以下を目安とします。
Mg/K比	1.18	—	2~6		○				<b>慣行施肥量を80%程度減肥できます</b>

## 分析結果に対するコメント

- pHが高い(中性)です。微量元素による欠乏障害に注意してください。
- 可給態リン酸が過剰ですので、減肥を考慮してください。「リン酸減肥の目安」をご参照ください。
- 交換性カルシウムが過剰ですので、pHの変化に注意し減肥を考慮してください。
- 塩基バランスが傾いています。カルシウムを減らし、マグネシウムを増やすと改善が期待できます。

### ～総評～

リン酸やカルシウムが過剰で、塩基バランスが傾いています。リン酸とカルシウムの減肥を考慮しましょう。カルシウムを減肥することでpHや塩基バランスの改善が期待できます。マグネシウムは増やしましょう。

### 養分過剰な場合の対処法

- 基本的に減肥を行う
  - 堆肥の養分も考慮し、過剰養分を減らす
- クリーニングクロープ
  - 緑肥を植え、養分を吸収させる
- 深耕・容土を行う
  - 養分を薄める
- 灌水する
  - 養分を灌水で流す
  - \* 周辺環境への配慮が必要

pH	可給態リン酸	交換性カリウム	交換性マグネシウム	交換性カルシウム	塩基バランス
多くの作物ではpH6.0~pH6.5が適正値となる。pHが低い場合は石灰類を施用して改善する。 *アレニウス表を活用する。  高い場合は石灰類を無施用とする。特に高い場合はpHを低下させる資材を施用する。	リン酸を好む作物は70~100mg/100g 一般作物は30~50mg/100gを目安としましょう。  100mg/100g以上では減肥300mg/100g以上では無施肥を検討しましょう。	交換性カリウムは50~60mg/100g程度までで十分とする作物が多い。  カリウムの過剰症は発生しにくいですが、マグネシウムの吸収を阻害するので塩基バランスには注意が必要。	交換性マグネシウムは10mg/100g以下になると多くの作物で欠乏症が発生する。  単に含量だけでなく塩基間バランスを重視する。特にカリウムとの比率を2~6(当量比)とする。	交換性カルシウムは単に含量だけでなく、pHや塩基バランスなどを特に注意する。  土壌ワークスでは200mg/100g程度を適正値としている。	塩基類は含量だけでなく、塩基間のバランスが重要。(当量比) Ca:Mg:Kを5:2:1 * mg/100g比だと280mg:81mg:91mg  Ca/Mg比を4~8 Mg/K比を2~6

## 土作りにご活用ください

各元素の役割	窒素について	リン酸について	カリウムについて	カルシウムについて	マグネシウムについて
リン酸吸収係数について	仮比重について	作土について	施肥の計算方法	土壌の種類の見分け方	